

中標津町郷土館だより 第27号

戦後70年

中標津の戦争遺跡をたどる

発行:平成27年12月1日

発行所:中標津町教育委員会

標津郡中標津町丸山2丁目22番地

電話:教育委員会(0153-73-3111)

郷土館(0153-72-2190)

http://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan_web/index.htm



海軍標津第一航空基地(昭和22年米軍撮影)



町内に残る海軍の施設跡

戦争遺跡とは?

明治から昭和時代に至るまでに繰り返されてきた戦争と、戦争遂行のために民主主義や平和を否定し、弾圧した事件などを物語る「跡」や「モノ」が「戦争遺跡・遺物」です。

戦争遺跡の種類には、①政治・行政関係、②軍事・防衛関係、③生産関係、④戦闘地・戦場関係、⑤埋葬関係、⑥交通関係、⑦その他、天皇の御真影が飾られた奉安殿などがあります。

これらは、近代日本が繰り返してきた戦争とその準備の結果として形成されたものであり、負の遺産とはいえ戦争の実情を後世に伝える上で重要なものと捉えられています。

海軍標津第一航空基地(現:中標津空港)

昭和18(1943)年になると、北方防衛の最前線であったアツツ島が玉碎したことにより、キスカ島の兵員が撤退。最前線は北千島へと後退し、米軍の進撃は激化を極め北海道本土空襲の可能性が高まってきました。

こうした戦況の悪化により、北方の最前線基地として中標津に海軍標津第一航空基地が計画されました。

飛行場の建設にあたり、用地は「なるべく海岸に隣接し」、「平野が広がるところ」が選定されたため、適地と判断された開陽地区では、多くの農家が開拓地から離れなければならない状況となり、昭和19年4月から昭和20年春にかけて強制移住が進められました。

飛行場の建設にあたっては、タコ部屋の他、中国人、朝鮮人の強制労働が行われるなど、多くの労働力が投入され、昭和19年秋には滑走路がほぼ完成しました。しかし、戦闘機の配備は一度もないまま、昭和20年8月15日の終戦を迎えることとなり、その後、海軍標津第一航空基地の施設は、滑走路と誘導路の一部を残して進駐軍によって破壊されてしまいました。

現在、往時を語る遺構は、旧滑走路の一部、格納庫の基礎跡、「コ」の字状に土を盛って作られた掩体壕跡、軍用として使われた鉄道の跡等があります。また、空港から丸山公園にかけて海軍地下弾薬庫や防空壕などが多く存在していましたが、そのほとんどが埋められるなどして、人目につくことはなくなってしまいました。

参考文献

- 中標津町五十年史編さん委員会(1995)『中標津町五十年史』中標津町
- 菅原真一(2006)『道東学序説』道東文化を語る会
- 北海道大学鉄道研究会(1990)『混合列車 No.19』



空港敷地内に残る
戦闘指揮所の地下部分



旧滑走路(写真左)
新滑走路(写真右)
(昭和63年撮影)



軍用鉄道の跡
当時、飛行場建設にあたりコンクリートを作るための砂利が標津の海岸で大量に採集され、標津線から分岐する軍用線で輸送されました。



格納庫の基礎跡



掩体壕跡

熊部隊と武佐岳山砲陣地



旧土田旅館
(赤矢印の方向より米軍艦載機の機銃掃射を受けた)



旧土田旅館で使用された戸に残る機銃掃射の痕

昭和20(1945)年、軍部は戦況が悪化してきたことから、千島方面の守備隊を北海道へ転進させました。そして、北海道本土決戦を「計根別平地」又は「苦小牧平地」と想定していました。

軍部は「計根別平地」が主戦場となる場合は、標津の浜から米軍が上陸してくることを推定していたため、標津沿岸ではサイダー瓶にガソリンを詰めて敵の戦車などに飛び込んでいくアンパン体当たり特攻訓練が行われ、中標津では、陸軍の旭川第七師団の地上部隊である「熊9207部隊」と山砲部隊の「熊9216部隊」、通称「熊部隊」が武佐岳の中腹に米軍を迎撃するための山砲陣地を構築しました。隊の本部は中央武佐市街に置かれ、大隊長の加藤覚郎大尉は合田商店の住宅に居を据え、経理隊は上武佐駅前の土田旅館を使用していました。

部隊は、イロネベツ川上流の沢に山砲を設置する穴(間口約5.6m、奥行10.92m、高さ約2.72m)を掘り、セメントで固めトーチカ風の山砲陣地を構築しました。この山砲陣地の所在地は、中標津空港の送迎デッキから真正面に見える武佐岳麓の笹原台地です。砲台は海岸に向けられており、敵が上陸した際に攻撃する予定でしたが、射程距離が短かったため、相当内陸まで進軍してこなければ効果は上げられなかつたと思われます。

実際に米軍が上陸することはありませんでしたが、昭和20年7月14日(又は15日)の早朝、熊部隊の隊員が武佐地区で空襲警報を聞いた後、米軍の艦載機が武佐岳方面から低い角度で侵入し、上武佐駅や土田旅館に機銃掃射を浴びせました。

その出来事からおよそ1ヶ月後の8月15日、大隊の全員が武佐中央市街に集められ玉音放送(昭和天皇「大東亜戦争ノ終結」の詔書発表)を聞くことになったのでした。

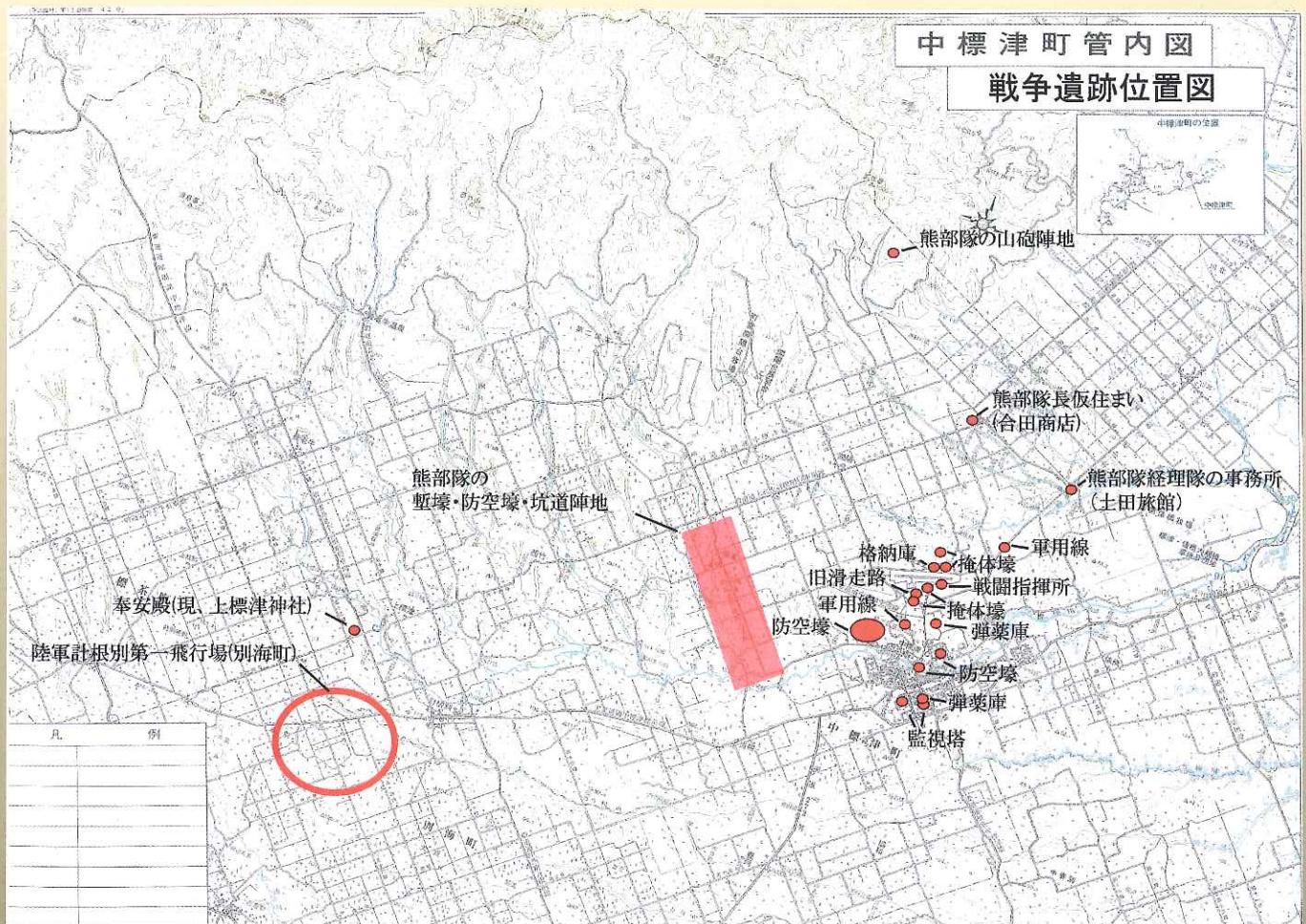
参考文献

- 上出五郎(2010)『自分史』
- 示村貞夫(1972)『旭川第七師団』
- 菅原真一(2006)『道東学序説』
- 土田良吉(2011)「実録・武佐岳に旧陸軍の「山砲陣地」があった」
『中老連会報 No.145号 年輪 平成23年7月号』
- 侯落開基・開校記念事業協賛会(1993)『またおち川』



武佐岳(写真中央の山)と山砲陣地の位置

中標津の戦争遺跡 位置図



*町内に残る戦争遺跡のほとんどが民有地内に所在していますので、訪問される際は、地域の方々の迷惑になるような行為は慎まれるようお願いいたします。



熊部隊が保落地区に構築した坑道陣地

昭和20年、緊急配備された熊部隊により、保落地区に塹壕や防空壕、坑道陣地などが構築されました。



元奉安殿(現:上標津神社)

戦後、上標津小学校校庭にあった奉安殿が現在地に移転・改修され、現在は神社として使用されています。